

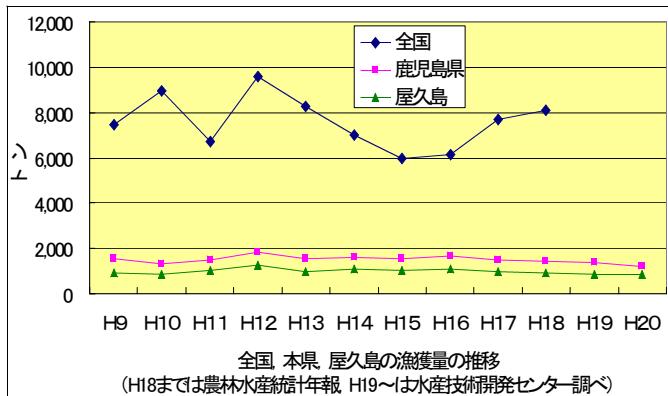
# 鹿児島県で漁獲されるトビウオの種類

資源管理部 主任研究員 立石章治

## 【目的】

本県で水揚げされるトビウオ類の漁獲量は全国1位で、年間約1,500トンで推移しており、国内の約20%を占めている。中でも屋久島漁協だけで年間約1,000トン水揚げされており、単一漁協の漁獲量としても全国1位である。

このトビウオ類の資源状態を科学的に把握し、今後の資源管理を確立していくために必要となる種の特徴を明らかにし、種別にデータを蓄積する。



## 【材料と方法】

県内各地で水揚げされるトビウオ類をサンプリングし、それぞれの種の把握に努めた。

## 【調査結果】

以下の表のようにトビウオ類は種類によって胸鰭、背鰭、尻鰭の条数や背鱗数が異なっており、これらをカウントすることにより14種類に分類できた。水揚げ漁協や出現時期の詳細については、当センターのHPの〈かごしま水産情報〉に掲載しています。

(<http://kagoshima.suigi.jp>)

## トビウオ分類表－1

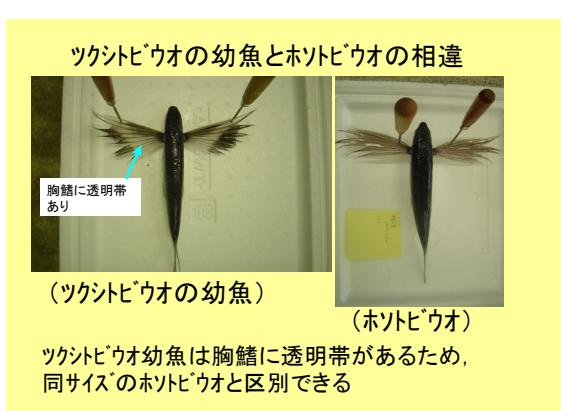
○ よく見る種類

○ 希に見る種類

	サバビウオ	ケモレザヨリ	ダテホビウオ	ハコロビウオ	ツマリビウオ	ハシゴタビウオ	ハルミタビウオ	ザカビウオ	ニジミタビウオ	オキビ	オオオキヒ	アトビウオ	オオアカビ	カクビ	ホタヒビウオ
D:背鰭	13~15	12~15	13~15	12~14	11~13	9~11	10~11	10~11	10~12	10~12	11~12	11~13	12~14	13~15	12~14
A:尻鰭	14~16	14~15	13~14	12~14	13~14	10~12	8~9	8~10	11~13	11~12	10~12	7~9	9~11	9~11	10~11
P1:胸鰭	11~13	11~13	13~15	14~16	12~14	12~14	16~18	16~18	16~19	17~20	18~20	14~16	13~14	13~14	14~15
P2:腹鰭	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
S:背鱗数	28~33	28~34	17~20	18~22	21~25	16~20	26~27	25~29	30~34	28~32	29~31	25~28	38~42	32~36	26~29
L:側鱗数			43~48	40~50	43~50	38~40	44~46	46~51	50~55	50~54	50~53	45~48	56~59	55~58	46~50
分布	釣子以南の黒潮域 琉球近海	三重以南 琉球近海	全太平洋 の暖海域	太平洋の 熱帯域 インド洋	太平洋の 熱帯域 印度洋	西太平洋の 熱帯域 尖閣諸島 西太平洋	南日本 尖閣諸島 西太平洋	琉球 小笠原	全太平洋 の熱帯 尖閣諸島 西太平洋	小笠原 西太平洋 の熱帯	房総以南 西太平洋 の熱帯	琉球 伊豆～	房総以南 西太平洋 の熱帯	琉球	琉球以南

## トビウオ分類表－2

	サンダラマン	オゾロビ	ビウオ	ハタビウオ	オサカバ	アラカビ	ホトビウオ	ホオトビ	ツカトビウオ	ヒメカビ	カタビ	イマビウオ	シロカビウオ	ガムビカ	チャムビカ
D:背鰭	12~14	14~16	10~12	12~14	12~14	12~14	11~14	9~12	12~14	13~14	10~12	11~13	12~14	12~15	13~14
A:尻鰭	9~11	9~11	9~11	10~11	10~11	8~10	8~10	10~13	9~11	9~10	7~9	8~10	9~11	9~10	10~11
P1:胸鰭	12~19	13~16	16~17	14~16	14~16	16~18	15~17	15~17	15~16	14~15	14~15	14~16	15~17	12~14	13~14
P2:腹鰭	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
S:背鱗数	23~27	25~26	33~37	40~47	28~34	30~35	31~35	31~36	30~35	25~28	28~32	26~32	25~35	35~40	29~34
L:側鱗数	43~47	46~51	52~57	61~68	49~56	53~56	51~55	51~56	52~57	44~46	45~48	46~52	51~55	51~57	48~55
分布	房総以南の暖海域 東北～ 南日本 東シナ海 伊豆～ 琉球 小笠原	東北～ 南日本 台湾東部	津波以南 西太平洋 の暖海域	黑潮愛流 北緯直以南 の熱帯	琉球以南 東シナ海 東シナ海 の熱帯	九州近海 東シナ海 小笠原	黑潮或 琉球 熱帶或 印度洋	太平洋 黑潮或 琉球 熱帶或 印度洋							





(参考)

これら14種は成魚の大きさや胸鰭の模様も様々で、来遊経路も九州北西部、小笠原諸島、沖縄方面からと多様です。